

話題 其の2：私こそが、BMWのオーナーであ〜る

5月31日、やっと車が配達されてきました。とうとう私もドイツ車BMWのオーナーになりました。すごいでしょ。しかもサンルーフ付き。94年製で12万km走行の8500ドル(約106万円)。ガソリン給油口の小さなドアは壊れていて閉まらない。でも、室内は少し臭い。が、車体は細かな傷だらけという代物です。(2年間だからこれで上等)初ドライブは24時間営業のスーパーマーケット。なんと、そこにはサンミゲルの小瓶が売ってるじゃないですか。サンミゲルはフィリピンで生活していた頃、毎日呑んでいたフィリピン製のビールです。ちなみにビールの他にもワインやウイスキーも気軽に購入できます。イスラム教圏への赴任で、長い休肝日を少しは覚悟していたのですが、これは私にとって幸か？ それとも不幸か？ 夕食時に冷えたサンミゲルビールの爽快さが、BMWのオーナーになった事を忘れるほど嬉しかったのは何故だろう？

話題 其の3：わたしの仕事？

今回は、私の日常業務について、簡単に紹介します。

ヨルダンと国境を接して西隣にイスラエルという国があります。53年前まではパレスチナという地域でした。イスラエルの人たちの殆どはユダヤ教と言う宗教の人です。ユダヤ教は、紀元前のはるか昔にこの地で繁栄しましたが、幾たびもの侵略や戦争で、多くの国や民族から迫害を受けます。そして、その結果世界中に離散してしまうのです。しかし、この人達は優秀な民族で、ヨーロッパや米国で大成功を納めるのです。今の米国経済を握っているのは推定600万人に及ぶユダヤ人だと言われるくらいに。

それと、ナチスによるアウシュビッツでの400から600万人(推定)のユダヤ人が虐殺されたりしたので、世界中がユダヤ人に同情しました。そんな背景で、ユダヤ人達は、大昔住んでいた古里(?)に還って、国連の承認を得て建国したのです。パレスチナ人にとっては「軒を貸して母屋を取られる」状況で、追い出されたわけです。追い出された人たちは「パレスチナ難民」と呼ばれています。この人達は、イスラエル国内のガザ地区、同じくヨルダン川の西岸地区、ヨルダン国内、シリア国内、レバノン国内に住んでいます。この5地域の小学校と中学校併せて639校(難民登録児童数47万7千人)、職業訓練校が8校(生徒数4700名)を国連パレスチナ難民救済機構の教育局が統括しています。

私の仕事はこの教育局の中で、これらの職業訓練分野に対して、日本の職業訓練を紹介したり、訓練校の先生方(500名以上)の再教育などを計画しています。

すごく大雑把にイスラエルとパレスチナ関係を紹介してしまいましたが、この中東和平問題には複雑な問題が沢山あるし、今もまさに大小に及ぶ紛争の毎日です。

ヨルダンに滞在して居るのですが、本来ならば、ガザやヨルダン川西岸のパレスチナ自治区内にある職業訓練校にも出かけて行って、職業訓練の近代化や改善の為の支援も期待されているのですが、ここに住んでいるパレスチナ人達でさえ、「今は危険だから・・・」と言って近づきません。とは言え、52年前に難民としてヨルダンに来たわけですから、殆どが2世で、故郷を知らない人たちが多くなっているわけで仕方ない面もあるでしょうね。

執筆及び編集：久米 篤憲